

2020/21 年度 第 3 回理事会 議事録

日時： 2021 年 9 月 18 日（土）13 時～17 時

会場： Zoom によるオンライン会議

出席者： 山野博哉，藤田和彦，梅澤有，中野義勝，栗原晴子（以上理事），鹿熊信一郎，野中正法（以上監事），久保田賢（事務局）

欠席者 井龍康文

議題

報告事項

（1）業務報告

1. 学会誌（資料 1）

英文誌の出版社変更や英文誌の著作権規程策定等を含む雑誌編集や論文賞選考等に関する 2020/21 年度後半の業務について、資料に基づき説明された。また、投稿数の増加、電子投稿システム導入や論文掲載料設定等、今後の継続検討が必要な内容についても、紹介された。さらに、和文誌の冊子体発行廃止について、今後理事会や学会戦略委員会での議論を要望された。

2. 広報・社会連携（資料 2）

広報委員会では、発行済み NL90 号の編集、第 24 回大会のプログラム等を掲載予定の NL91 号の準備に加え、編集作業依頼状況等について、資料に基づき説明された。また、脆弱性等の問題から以前からの課題となっていた Web サイトの検証や修復に関して調査を開始した。教育・普及啓発委員会では、保全・教育普及奨励賞については募集締め切りを 1 ヶ月延長したこと、海洋教育学会設立準備会合に出席したこと、YouTube を利用した教育用動画の開発などの活動についても紹介された。

3. 学会戦略・国際連携（資料3）

2020年のG20環境大臣会合及びG20サミットにおいて設立された「Global Coral Reef R&D Accelerator Platform」のイニシアティブ統治委員会のオブザーバーとして渡邊敦会員に参加を依頼し、承認されたことが紹介された。

4. サンゴ礁保全・調査安全（資料4）

保全・教育普及奨励賞の募集等の業務について、資料に基づき説明された。また、沖縄防衛局によるサンゴの移植に関する沖縄県からの意見照会について、紹介された。本会に対する照会についてはすでに新聞報道等を通じて広く知られているが、容易に可否を判断できる案件ではないことから、サンゴ礁保全・学術委員会で慎重に検討していることが紹介された。また、沖縄県から普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境監視等委員会委員長宛の公開質問状の項目の一つである水中ボンドの毒性とその使用の可否について、団体会員より問い合わせがあったことが紹介され、この件については保全・学術委員会から事務局を通じて回答することが確認された。

5. 庶務・会計（資料5）

各賞の募集や授賞者選考の状況、オンライン選挙の実施とその結果の報告、第24回大会における申し込み締め切り期日、要旨の英語化、公開シンポジウムの概要、学会費、経理業務の体系化、外国会員等への会費請求におけるPaypalの導入準備等について、資料に基づき業務報告が行なわれた。なお、庶務・会計担当理事の所掌範囲が広いことから、長期的なビジョンにおいて大会運営を所掌する理事を1名追加するか他の理事に所掌を変更するなどの検討が必要であるとの提案がなされた。この点については、新たな理事をすぐに設置するのではなく、学会戦略委員長及び会長の責任のもと学会戦略委員会が担う等の案がだされ、次新理事会への申し送りとする事となった。

(2) その他

特になし

審議事項

(1) 2021/22 年度事業計画について（資料 6）

各業務執行理事により、事前に提出された 2021/22 年度事業計画が配布され、内容が確認された。教育普及媒体としての YouTube 用動画の作成など新たな事業の提案も含まれている一方、次期の業務執行理事候補者との情報共有の上で計画策定が必要な項目があることから、2021/21 年度第 1 回理事会（2021 年 10 月末または 11 月上旬開催予定）までに原案を確定することとなった。

(2) 2021/22 年度予算について（資料 7）

2021 年 8 月末時点の予算執行状況や 2021/22 年度事業計画に基づき、2021/22 年度予算について提案された。事業計画と同様に一部の項目については次回理事会までに各業務執行理事により検討されることとなった。

(3) 会長の任期について（資料 8）

役員・代議員選任規則において、理事の任期が「引き続いては 2 期を限度とする」とされていることから、理事 2 期目で会長に就任した場合は、1 期しか務められないことになる。そこで、理事 2 期目かつ会長 1 期目の理事が、会員による会長候補者選挙により候補者に選出されるとともに代議員および理事会により会長に推薦された場合に、特例的に理事 3 期目（会長 2 期目）として就任できるよう規則改正する案が提出され、承認された。

(4) 2021/22 年度 - 2022/23 年度の会長、理事および委員長候補者について（資料 9）

2021 年 5 月の会員による会長候補者選挙および 2021 年 7 月に就任した代議員により推薦された会長候補者を参考に、山野博哉現会長が 2021/22 年度、2022/23 年度の会長として選出され、受諾された。その後、現在 1 期目の理事および代議員の互選による理事候補者リスト等を参照し、理事候補者および各業務担当について議論された。さらに、現在の各委員会活動の状況について情報共有され、次期の委員長候補についても検討された。山野次期会長を中心に、理事および委員長の選出について 2021/22 年度第 1 回理事会までに調整が図られ、決定されることとなった。

(5) 外国会員に対する会費免除期間の終了による定款細則の変更について(資料5: 庶務・会計理事報告資料内)

外国会員を対象に2018/19年度から3ヶ年度にわたる会費免除期間が終了することから、これに関連する一文を削除する案が提案され、承認された。

(6) 代議員選挙のあり方について(資料5: 庶務・会計理事報告資料内)

2020/21年度の会長、代議員選挙の選挙管理委員より、検討依頼があった(1)代議員の東西地区の分割の必要性、(2)24人という代議員数の必然性、(3)選出された代議員による会長候補者推薦枠の必要性と選挙管理委員の業務範囲および(4)学生の被選挙権の必要性について議論された。(1)および(4)については、各地域のバランスおよび学会員の権利の担保のためにもその必要性が確認された。(2)の代議員の人数は全会員の代表者としての適切な人数の検討を含め継続審議することとなった。(3)は会員による会長と代議員の選挙とその結果を示すことまでが選挙管理委員会の業務とし、代議員による理事および会長の推薦に関連する業務は事務局で実施するということで業務の線引きが確認された。

また代議員の役割をより明確化する必要性が示され、理事会へのオブザーバー参加や、委員会への積極的な参加を促すなどの意見が出された。次会長のもとで引き続き代議員のあり方の検討とその役割を会長から代議員全員に通達することとなった。

(7) 論文賞受賞者の決定について(資料10)

論文賞受賞候補論文選考委員会による日本サンゴ礁学会誌論文賞およびGalaxea, Journal of Coral Reef Studies 論文賞の選考結果が報告され、それぞれの論文の著者に対して授賞することが決定された。